

2018/1/22

## 柏の景気情報（平成29年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成29年12月分）

○ 調査期間 : 平成29年12月22日 ~ 平成30年1月5日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	20	45.5%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	19	44.2%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年12月の調査結果のポイント】

◀業況DIは3か月振りに改善するも、先行きは不透明感が残り横ばいの見通し▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△18.7(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲47.3(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲12.5)、建設業▲20.0(同▲19.0)である。

【建設業】からは、「会社全体に活性化が出つつあり、見通しが良くなっている。途中入社ではあるが若い人の入社が数名あり、創業43年の澁みの部分が払拭(一般土木建築工事業)」、「畳のお部屋は夏涼しく冬暖かいと喜んでくださるお客様も多いので畳業に精進する(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「日本の製造業は景気が良いと言われているが、我々小企業にはまったく当てはまらない(印刷業)」、「サーボモータ、LMガイドに続いてボールねじも入手困難(その他の機械・同部品製造業)」、「店舗販売からネット販売と消費者の意識に激変があり、商業・工業の業態への影響は大きい(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「十二月の季節指数アップは無くなり、平月と全く同じ(婦人・子供服小売業)」、「柏そごう閉店1年が過ぎ人の流れが益々悪化。そごう跡地利用が進めば商機有り(時計・眼鏡・光学機械小売業)」、「前年並みに推移したが平年より気温が低下した影響もあり、売れ筋の変化が見られた。防寒衣料を必要とした商品が好調に推移し、特にブーツ・帽子・マフラー・肌着等が前年を大幅にクリア。年末年始商品のクリスマスケーキやおせち等は年々下降となり、今年度も前年割れの状況。お歳暮は前年並みに推移もビールよりお菓子・ハムなどの需要が高まった(その他の各種商品小売業)」、「クリスマスの予約はマル得チケットの影響もあり昨年より多かったが、当日売りが曜日の関係で少なかった(菓子・パン小売業)」、「そごう閉店、丸井リニューアルに伴い客層が変わり、日・祭日の人出は郊外のショッピングモールに移動し、物販店はかなり苦戦。東口の活性化対策が課題(花・植木小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「大手企業の高収益に対し、ネットを多当化した小売業の利益成長とますます利益企業は変化に富んだ経営を強いられる。十二月売上増、利益幅の少ない企業多し(投資顧問)」、「運賃・人手不足・原材料等を反映して全体的に値上りが目立つ。定番商品でもメーカーが見込み生産から受注生産方式に移行。このため販売計画と仕入れ発注が難しい。大型店の影響や日没が早いこともあるが客足の途絶えるのが早い(その他の飲食料品小売業)」、「燃料(軽油)の高騰による仕入単価の上昇(収益悪化)(一般貨物自動車運送業)」、「売却査定案件は増えている。高齢化に伴う住み換えや相続によるものが多い。低額物件の動きがある。売却物件の量が減少しているため市場価格はやや右肩上がり(不動産管理業)」、「サンサン通りの落込みはひどいです。先のことばかり見て地元の商工業者が消えていくのは本末転倒(不動産賃貸業)」、「景気上昇実感できず、今は年度末トッカン工事が多く目先だけの動向にすぎず。長期としては不安ありの状態続く(ソフトウェア業)」、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「長雨の影響で工期がずれ人手不足が続き、職人の取り合いが凄まじいが、施工単価が安い状態で余裕ある人手の手配も難しく四苦八苦した(その他の職別工事業)」、「例年新卒を4~5名採用していたが来年度の新卒は無しで人員不足に(機械器具小売業)」、「来年は2名ほど採用したい。優秀な若者なら外国人でもよい(その他の職別工事業)」、「受注が下期集中型なので第4四半期に向けて人手不足が見えてきている(その他の機械・同部品製造業)」、「受注量が増えても消化できる人員が不足(一般産業用機械・装置製造業)」、「相変わらず人手不足は深刻。募集広告を出しても応募がない(その他の飲食料品小売業)」、「トラック運転手(社員)不足(一般貨物自動車運送業)との声」が寄せられた。

◎売上・受注減少

各業種より、「忙しかった割に売上減少となった。材料は上げ止まりだが、施工単価が下がっている。それぞれ物件は有るが、どのゼネコンも施工単価がかなり落ちている(その他の職別工事業)」、「十二月は受注件数減少。お正月は新しい畳でと考える方が減っている(内装工事業)」、「路面店は顧客の高齢化により来客数が徐々に減っている(婦人子供服小売業)との声」が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
見通し	▲14.0	▲20.0	△18.7	▲36.8	▲12.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

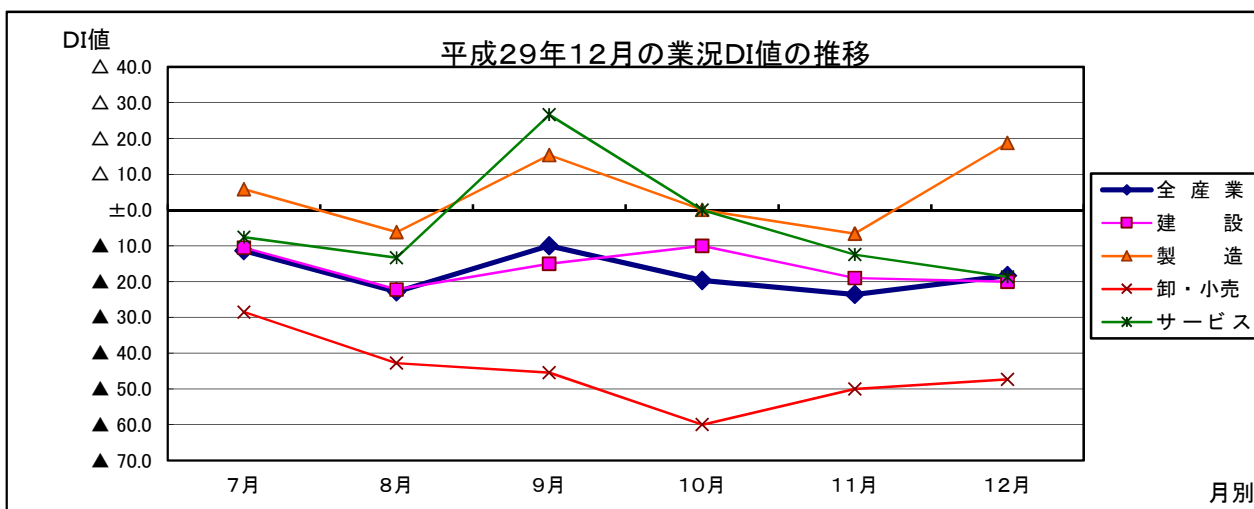
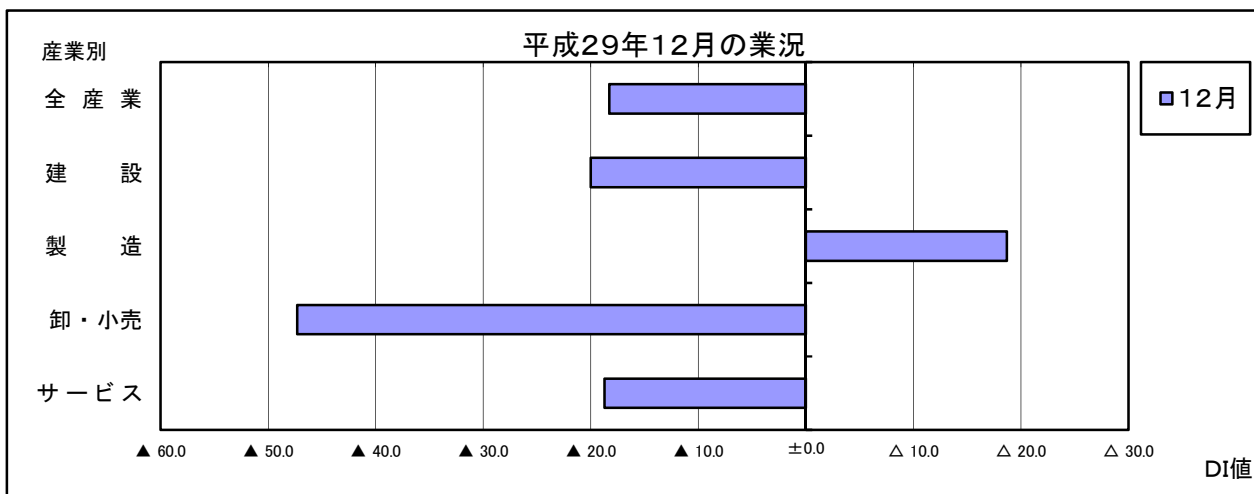
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△18.7(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲47.3(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲12.5)、建設業▲20.0(同▲19.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲18.0)となり、マイナス幅が4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△18.7(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.8(同▲55.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲4.7)、サービス業▲12.5(同▲6.2)である。

平成29年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲11.4	▲22.8	▲10.0	▲19.7	▲23.6	▲18.3	▲14.0(▲18.0)
建設	▲10.5	▲22.2	▲15.0	▲10.0	▲19.0	▲20.0	▲20.0(▲4.7)
製造	△5.8	▲6.2	△15.3	±0.0	▲6.6	△18.7	△18.7(±0.0)
卸・小売	▲28.5	▲42.8	▲45.4	▲60.0	▲50.0	▲47.3	▲36.8(▲55.0)
サービス	▲7.6	▲13.3	△26.6	±0.0	▲12.5	▲18.7	▲12.5(▲6.2)



【平成29年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.4(前月水準▲19.4)となり、マイナス幅が11.0ポイント拡大した。

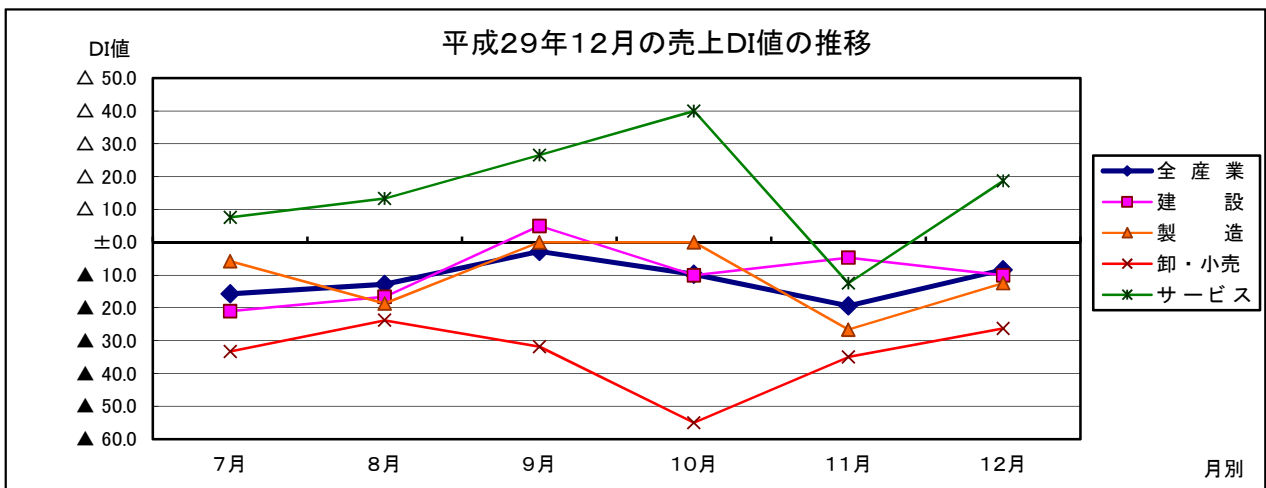
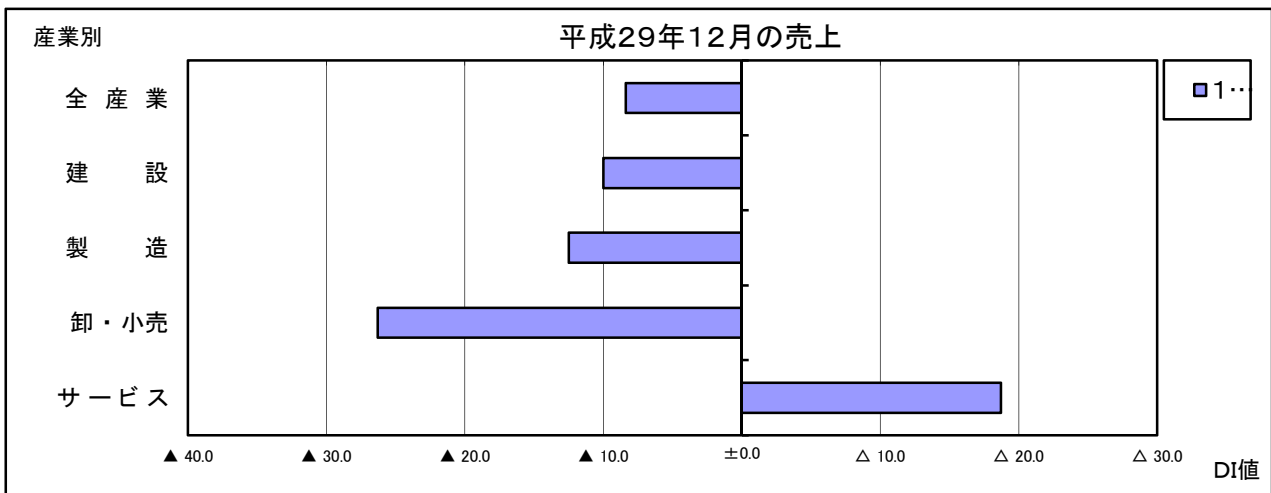
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△18.7(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲26.6)、卸小売業▲26.3(同▲35.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲10.0(同▲4.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲18.0)となり、マイナス幅は18.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△25.0(同▲18.7)、製造業△6.2(同▲26.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21.0(同▲40.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.0(同△9.5)である。

平成29年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲15.7	▲12.8	▲2.8	▲9.8	▲19.4	▲8.4	±0.0(▲18.0)
建設	▲21.0	▲16.6	△5.0	▲10.0	▲4.7	▲10.0	▲5.0(△9.5)
製造	▲5.8	▲18.7	±0.0	±0.0	▲26.6	▲12.5	△6.2(▲26.6)
卸・小売	▲33.3	▲23.8	▲31.8	▲55.0	▲35.0	▲26.3	▲21.0(▲40.0)
サービス	△7.6	△13.3	△26.6	△40.0	▲12.5	△18.7	△25.0(▲18.7)



【平成29年12月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.5(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅は2.5ポイント縮小した。

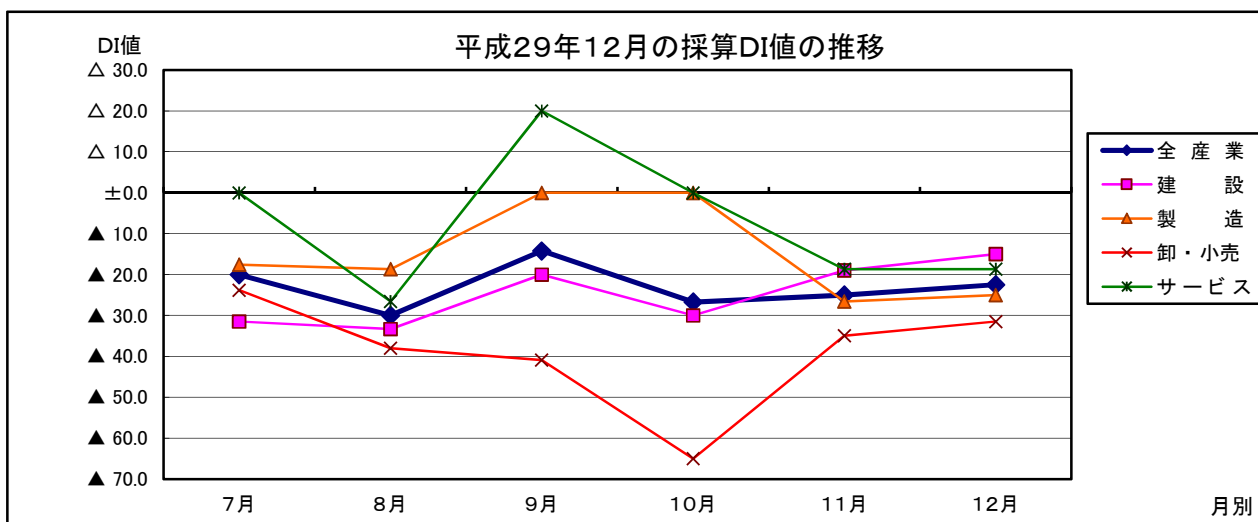
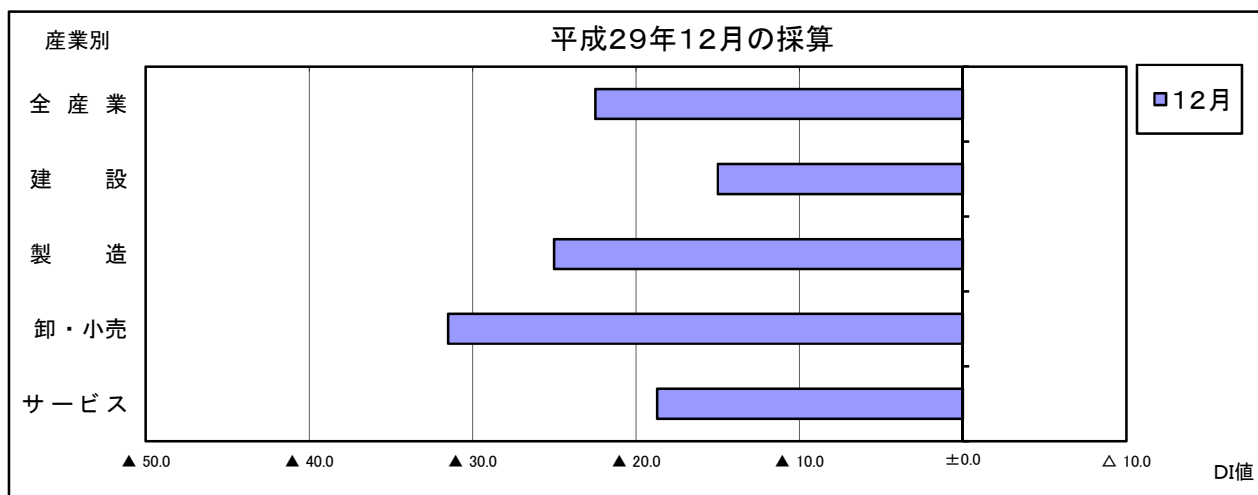
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.0(同▲19.0)、卸小売業▲31.5(同▲35.0)、製造業▲25.0(同▲26.6)である。変らない業種は、サービス業▲18.7(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲18.0)であり、マイナス幅が4.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.3(同▲45.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲4.7)、サービス業▲12.5(同▲6.2)である。

平成29年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲20.0	▲30.0	▲14.2	▲26.7	▲25.0	▲22.5	▲14.0(▲18.0)
建設	▲31.5	▲33.3	▲20.0	▲30.0	▲19.0	▲15.0	▲20.0(▲4.7)
製造	▲17.6	▲18.7	±0.0	±0.0	▲26.6	▲25.0	△6.2(▲13.3)
卸・小売	▲23.8	▲38.0	▲40.9	▲65.0	▲35.0	▲31.5	▲26.3(▲45.0)
サービス	±0.0	▲26.6	△20.0	±0.0	▲18.7	▲18.7	▲12.5(▲6.2)



【平成29年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.8(前月水準▲30.5)となり、マイナス幅が10.3ポイント拡大した。

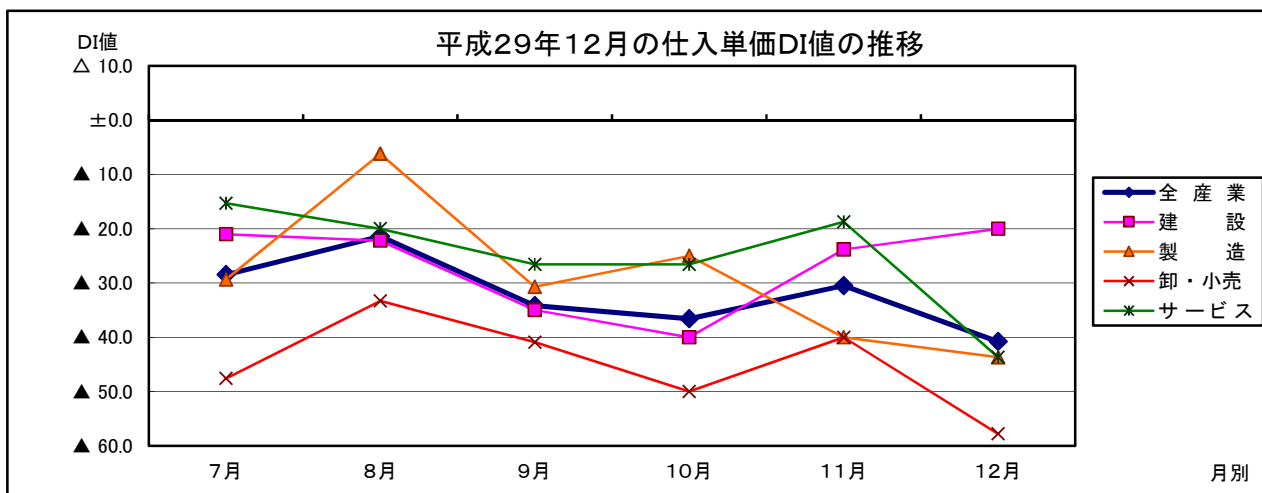
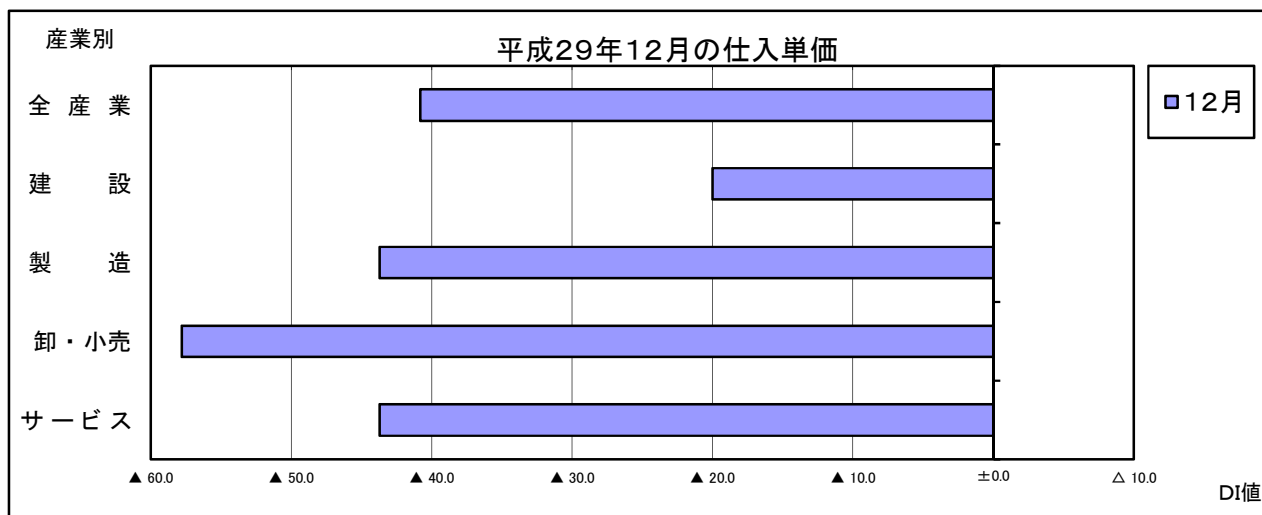
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20.0(同▲23.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲18.7)、卸小売業▲57.8(同▲40.0)、製造業▲43.7(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.6(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が11.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲23.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲12.5)、卸小売業▲52.6(同▲30.0)、製造業▲37.5(同▲33.3)である。

平成29年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲28.5	▲21.4	▲34.2	▲36.6	▲30.5	▲40.8	▲36.6(▲25.0)
建設	▲21.0	▲22.2	▲35.0	▲40.0	▲23.8	▲20.0	▲20.0(▲23.8)
製造	▲29.4	▲6.2	▲30.7	▲25.0	▲40.0	▲43.7	▲37.5(▲33.3)
卸・小売	▲47.6	▲33.3	▲40.9	▲50.0	▲40.0	▲57.8	▲52.6(▲30.0)
サービス	▲15.3	▲20.0	▲26.6	▲26.6	▲18.7	▲43.7	▲37.5(▲12.5)



【平成29年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、 $\Delta 21.1$ (前月水準 $\Delta 16.6$ )となり、プラス幅が4.5ポイント拡大した。

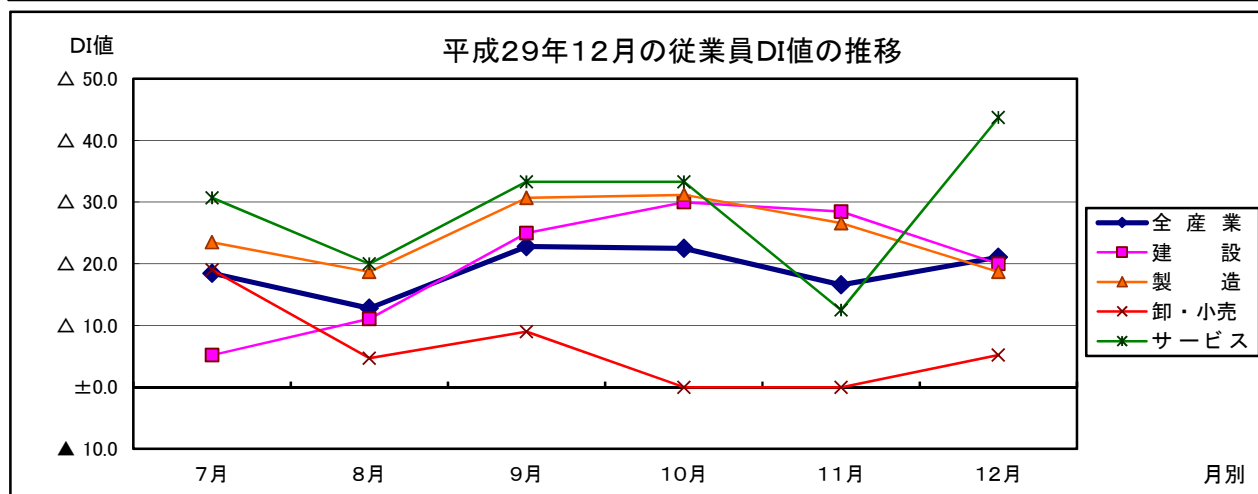
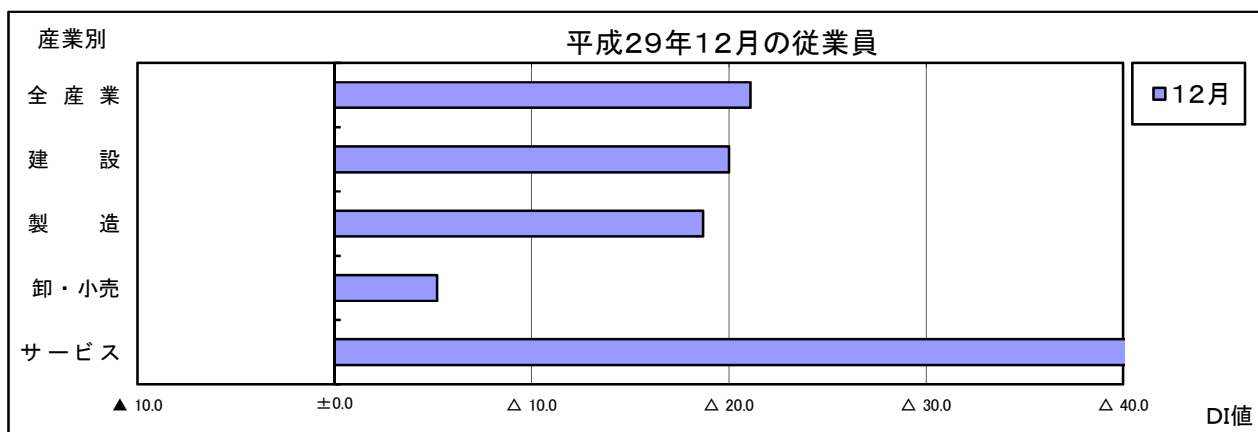
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 43.7$ (同 $\Delta 12.5$ )、卸小売業 $\Delta 5.2$ (同 $\pm 0.0$ )である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業 $\Delta 20.0$ (同 $\Delta 28.5$ )、製造業 $\Delta 18.7$ (同 $\Delta 26.6$ )である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、 $\Delta 22.5$ (前月水準 $\Delta 20.8$ )であり、プラス幅が1.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 43.7$ (同 $\Delta 12.5$ )、卸小売業 $\Delta 10.5$ (同 $\Delta 5.0$ )である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業 $\Delta 18.7$ (同 $\Delta 33.3$ )、建設業 $\Delta 20.0$ (同 $\Delta 33.3$ )である。

平成29年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	$\Delta 18.5$	$\Delta 12.8$	$\Delta 22.8$	$\Delta 22.5$	$\Delta 16.6$	$\Delta 21.1$	$\Delta 22.5$ ( $\Delta 20.8$ )
建設	$\Delta 5.2$	$\Delta 11.1$	$\Delta 25.0$	$\Delta 30.0$	$\Delta 28.5$	$\Delta 20.0$	$\Delta 20.0$ ( $\Delta 33.3$ )
製造	$\Delta 23.5$	$\Delta 18.7$	$\Delta 30.7$	$\Delta 31.2$	$\Delta 26.6$	$\Delta 18.7$	$\Delta 18.7$ ( $\Delta 33.3$ )
卸・小売	$\Delta 19.0$	$\Delta 4.7$	$\Delta 9.0$	$\pm 0.0$	$\pm 0.0$	$\Delta 5.2$	$\Delta 10.5$ ( $\Delta 5.0$ )
サービス	$\Delta 30.7$	$\Delta 20.0$	$\Delta 33.3$	$\Delta 33.3$	$\Delta 12.5$	$\Delta 43.7$	$\Delta 43.7$ ( $\Delta 12.5$ )





【平成29年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.6(前月水準▲12.5)となり、マイナス幅が6.9ポイント縮小した。

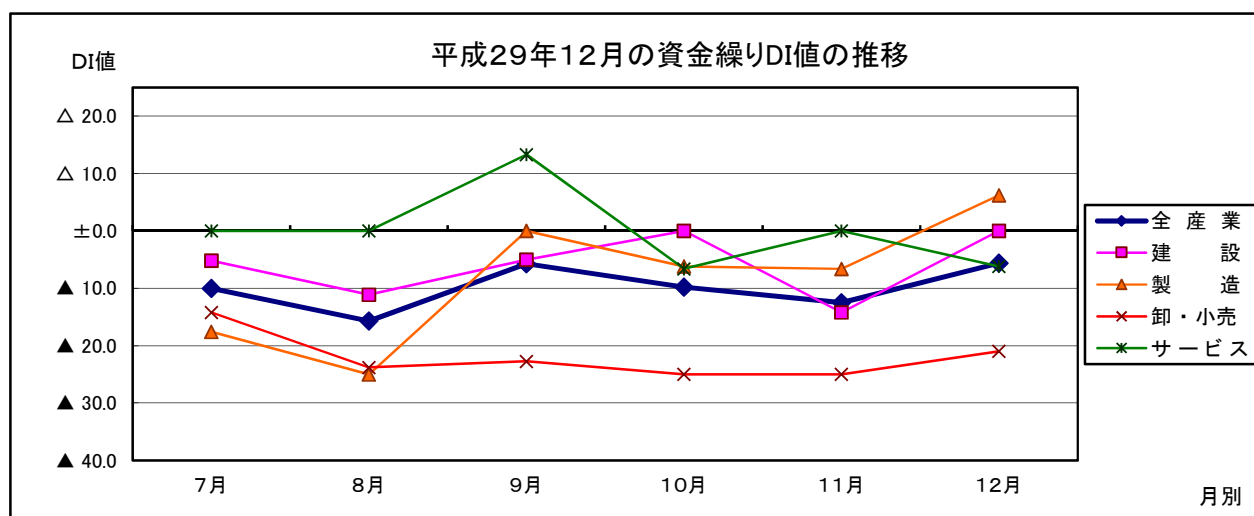
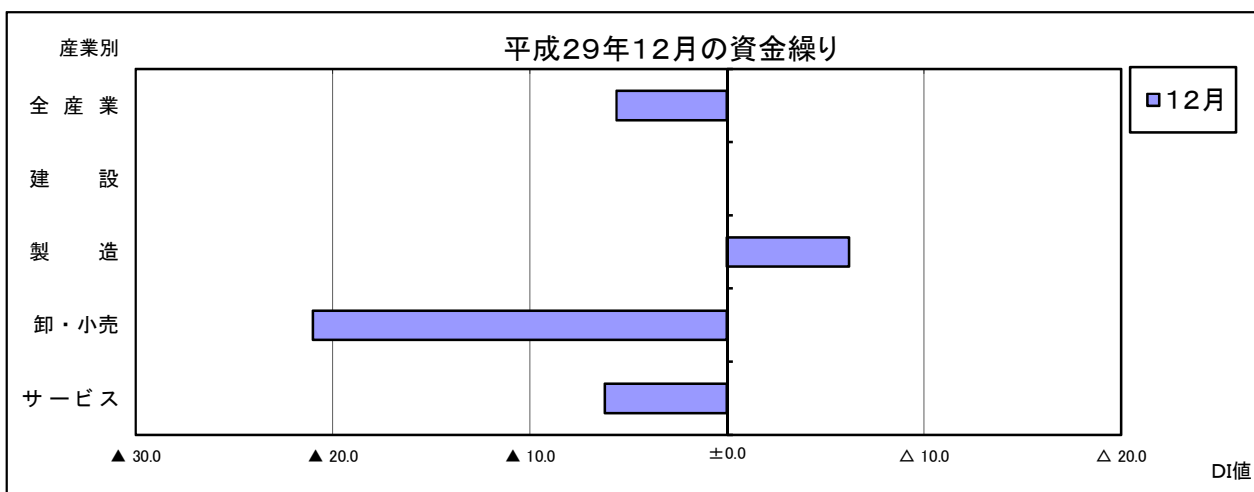
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲21.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲10.5(同▲25.0)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△12.5(同△13.3)、建設業±0.0(同△4.7)である。

平成29年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲10.0	▲15.7	▲5.7	▲9.8	▲12.5	▲5.6	±0.0(▲2.7)
建設	▲5.2	▲11.1	▲5.0	±0.0	▲14.2	±0.0	±0.0(△4.7)
製造	▲17.6	▲25.0	±0.0	▲6.2	▲6.6	△6.2	△12.5(△13.3)
卸・小売	▲14.2	▲23.8	▲22.7	▲25.0	▲25.0	▲21.0	▲10.5(▲25.0)
サービス	±0.0	±0.0	△13.3	▲6.6	±0.0	▲6.2	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.4	±0.0	▲ 22.5	▲ 14.0	▲ 40.8	▲ 36.6	△ 21.1	△ 22.5
建設	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
製造	▲ 12.5	△ 6.2	▲ 25.0	△ 6.2	▲ 43.7	▲ 37.5	△ 18.7	△ 18.7
卸・小売	▲ 26.3	▲ 21.0	▲ 31.5	▲ 26.3	▲ 57.8	▲ 52.6	△ 5.2	△ 10.5
サービス	△ 18.7	△ 25.0	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 37.5	△ 43.7	△ 43.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.3	▲ 14.0	▲ 5.6	±0.0
建設	▲ 20.0	▲ 20.0	±0.0	±0.0
製造	△ 18.7	△ 18.7	△ 6.2	△ 12.5
卸・小売	▲ 47.3	▲ 36.8	▲ 21.0	▲ 10.5
サービス	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 6.2	±0.0

【平成29年12月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	忙しかった割には売上が減少となった。材料は上げ止まり状態だが、施工単価が下がっている。そこそこ物件は有るものの、どこのゼネコンも施工単価がかなり落ちている。去年の長雨からの影響で工期がずれ、人手不足状態が続く職人さんの取り合いが凄まじいが、施工単価が安い状態で余裕ある人手の手配も難しく四苦八苦した年末となった。	売上減少 単価下落 長雨の影響 人手不足	その他の職別工事業
	例年新卒を4～5名採用していたが来年度の新卒は無しで事態で人員不足に。	人手不足	機械器具小売業
	10月11月の畳工事の依頼が多かった反面、12月は受注件数減少。「お正月は新しい畳で」と考える方が減っているんだとは思いますが、「畳のお部屋は夏涼しく冬暖かい」と喜んでくださるお客様も多いので引き続き畳業に精進いたします。	受注減少	内装工事業
	来年は2名ほど採用したい。優秀な若者なう。外国人でもよい。	人手不足	その他の職別工事業
	会社全体に活性化が出つつあり、先の見通しが良くなりつつもある。途中入社ではあるが若い人の入社が数名あり、創業43年の澁みの部分が払拭しつつある。	先行き良好	一般土木建築工事業
製造業	日本の製造業は景気が良いと言われているが、我々小企業にはまったく当てはまらない！	景気不変	印刷業
	受注が下期集中型なので第4四半期に向けて人工不足が見えてきている。サーボモータ、LMガイドに続いてボールねじも入手が困難になって来ている。	人手不足 仕入困難	その他の機械・同部品製造業
	店舗販売からネット販売と消費者の意識に激変があり、商業・工業の業態への影響は大きい。	販売形態激変	印刷業
	受注量が増えても消化できる人員が不足している。	受注増加 人手不足	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	12月の季節指数アップは無くなった。平月と全く同じ。路面店においては顧客の高齢化により来客数が徐々に減って来ている。(高齢者の死亡入院、施設入所等)	顧客高齢化 客数減少	婦人・子供服小売業
	柏そごう閉店1年が過ぎ、人の流れが益々悪化。人材も高齢化が進み引退が始まり、来年は売り場面積縮小必須、小売化へ挑む。そごう跡地利用が進めば商機有り。	人材不足 売場縮小	時計・眼鏡・光学機械小売業
	12月度全体としては前年並みに推移したが平年より気温が低下した影響もあり、売れ筋の変化が見られた。防寒衣料を必要とした商品が好調に推移した、特にブーツ・帽子・マフラー・肌着等が前年割れの状況が続いている。お歳暮ギフトは前年並みに推移もビールよりもお菓子、ハムなどの需要が高まった。	冬物好調 お歳暮商戦	その他の各種商品小売業
	クリスマスの予約はマル得チケットの影響もあり昨年より多かったが、当日売りが曜日の関係で少なくなった。	クリスマス商戦 マル得チケット	菓子・パン小売業
	そごう閉店、丸井リニューアルに伴い客層が変わり、日・祭日の人出は郊外のショッピングモールに移動しているように感じます。物販店はかなり苦戦していると思われます。東口の活性化対策が課題です。	郊外流出 小売苦戦	花・植木小売業
サービス業	大手企業の高収益に対し、ネットを多当化した小売業の利益成長とますます利益企業は変化に富んだ経営を強いられる。12月売上増、利益幅の少ない企業多し。高島屋の営業姿勢に注目。株高の恩恵は来年上期に期待。		投資顧問
	運賃、人手不足、原材料等を反映して全体的に値上げが目立つ(特に来年度から値上げ通知が来ている)。定番商品でもメーカーが見込み生産から受注生産方式に移行している。大手で1年先のところもある。このため販売計画と仕入れ発注が難しい。相変わらず人手不足は深刻です。募集広告を出しても応募がない。大型店の影響や日没が早いこともあるが客足の途絶えるのが早い。	運賃増加 人手不足 材料値上げ	その他の飲食料品小売業
	トラック運転手(社員)不足。燃料(軽油)の高騰による仕入単価の上昇(収益悪化)	人手不足 燃料高騰 仕入上昇	一般貨物自動車運送業
	(法人需要)次年度以降の引き合いが活発化。経営状況は良くてもシフト繰りが難しく職場旅行の実施意欲はあるも実施できない現実がある。人材確保、人材定着に課題感のある企業が多いようだ。(旅行全般)2017年訪日外国人見込みが2850万人(前年比18.7%増加)。2018年は3200万人(前年比12.3%増加)の見込み。柏駅周辺にのホテルも外国人比率が上がっていると聞く。	旅行好調 訪日外国人増加	旅行業

【平成29年12月業種別業界内トピックス】

<p>売却査定案件は増えています。高齢化に伴う住み換えや相続によるものが多いです。低額物件の動きがあります。売却物件の量が減少しているため市場価格はやや右肩上がりで上昇しています。</p>	<p>不動産売却増加 価格上昇</p>	<p>不動産管理業</p>
<p>サンサン通りの落込みはヒドイです。先のことばかり見て地元の商工業者が消えていくのは本末転倒です。</p>	<p>柏駅東口</p>	<p>不動産賃貸業</p>
<p>景気上動向実感できず、今は年度末トツカン工事が多く目先だけの動向にすぎず。長期としては不安ありの状態続く。</p>	<p>景気不変 低額増加 高額不安</p>	<p>ソフトウェア業</p>

## 平成29年12月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.3で柏の方がマイナス幅が5.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・サービス業・卸小売業であり、建設業・卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.4に対し、「CCI-LOBO」が▲6.0で柏の方がマイナス幅が2.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.9で柏の方がマイナス幅が10.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、すべてであり、製造業・卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.8に対し、「CCI-LOBO」が▲37.8で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業であり、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△21.1に対し、「CCI-LOBO」が△25.6で柏の方がプラス幅が4.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.6に対し、「CCI-LOBO」が▲8.3で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成29年12月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3868企業  
にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、改善続く。先行きは慎重な見方が残るも横ばい圏内の動き

十二月の全産業合計の業況DIは、▲13.3と、前月から+1.6ポイントの改善。電子部品や自動車関連の生産が引き続き堅調に推移した。また、消費の持ち直しから小売業、サービス業を中心に売上が改善した。株価上昇を背景に高付加価値品の売上が増えたほか、例年より早い気温の低下に伴う冬物商材の動きや、インバウンドを含む観光需要の拡大を指摘する声が増えた。他方、深刻な人手不足に加え、鉄鋼、農水産物などの仕入価格や運送費の上昇、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声が依然として多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復が続くものの、その動きには鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.6(今月比▲3.3ポイント)と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大、輸出や設備投資の堅調な推移など

への期待感がうかがえる。他方、人件費の上昇や受注機会損失など深刻な人手不足の影響や原材料費・燃料費・運送費の上昇、コスト増加分の販売価格への転嫁遅れを懸念する声も多く、中小企業においては先行きに慎重な見方が残る。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【卸売業】「建設業からの発注が好調で、売上は改善した。鉄鋼や木材などの仕入価格が上がっているが、徐々に価格転嫁を進め、採算も改善した」(建設資材等卸売業)、「十月の長雨や台風、十一月後半以降の冷え込みにより農作物の生育が遅れ、供給不足となっている。それに伴う価格の高騰から、消費者の購買意欲が減退し、売上が伸び悩んだ」(農産物卸売業)

【建設業】「民間工事が堅調で、売上は改善したが、技術者を始めとした人手不足は深刻。賃上げなど待遇面の改善により、人材の確保・定着を図る」(一般工事業)、「公共工事の発注量に一服感が見られるため、県外の工事確保にも乗り出した。だが、移動・宿泊にかかる費用の増加や、人手不足解消に向けた賃上げの影響から収益が圧迫されている」(土木工事業)

【製造業】「業務用米が大きく

く値上がりしているほか、食肉などの原材料価格も上昇し、採算は悪化した。旺盛な年末年始の需要を取り込み、挽回を図る」(食料品製造業)、「軽自動車を始めとする国内販売に加え、アジアなどへの輸出が好調なため、引き続き自動車部品の引き合いが増加している。だが、中東情勢の緊迫化による為替変動などが不安材料である」(自動車部品等製造業)

【卸売業】「建設業からの発注が好調で、売上は改善した。鉄鋼や木材などの仕入価格が上がっているが、徐々に価格転嫁を進め、採算も改善した」(建設資材等卸売業)、「十月の長雨や台風、十一月後半以降の冷え込みにより農作物の生育が遅れ、供給不足となっている。それに伴う価格の高騰から、消費者の購買意欲が減退し、売上が伸び悩んだ」(農産物卸売業)

【小売業】「堅調なインバウンド需要に加え、急激な冷え込みにより、コートやマフラーなどの冬物衣料が伸びている。富貴層を中心に、お歳暮ギフトも好調で、ハムなどの定番商品のほか、地域の特産品を集めた商品が人気である」(百貨店)、「衣料品に若干の

動きが見られるものの、消費者の節約志向から、食料品や日用品などにおける低価格競争は熾烈である。パート・アルバイトの最低賃金上昇もあり、採算は悪化した」(スーパーマーケット)

【サービス業】「年末年始にかけ配送需要が増加したことに加え、わずかであるが価格転嫁も進み、売上は改善した。だが、ドライバー不足は深刻で、事前に荷主へ配送時期の分散を依頼することで、なんとか対応している」(運送業)、「忘年会・新年会の予約数は前年並みを維持できしたが、農水産物の出荷量減少・価格上昇により、採算の確保が難しい」(飲食業)

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲16.1	▲13.3	▲9.5	▲11.9	▲33.9	▲11.7
8月	▲18.2	▲14.2	▲6.9	▲17.0	▲36.3	▲17.2
9月	▲15.3	▲7.4	▲10.1	▲19.2	▲31.4	▲10.8
10月	▲16.0	▲11.4	▲9.3	▲13.1	▲34.6	▲12.8
11月	▲14.9	▲10.0	▲4.2	▲24.3	▲31.7	▲10.9
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
見通し	▲16.6	▲13.7	▲10.1	▲17.9	▲24.0	▲18.6

# 柏の景気情報

## (12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年12月22日～1月5日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
見通し	▲14.0	▲20.0	△18.7	▲36.8	▲12.5

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

### 柏市の業況

業況DIは3か月振りに改善するも、先行きは不透感が残る横ばいの見通し

十二月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△18.7(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲47.3(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した

業種は、幅の大きい順に、

サービス業▲18.7(同▲12.5)、建設業▲20.0(同▲19.0)である。

【建設業】からは、「会社全体に活性化が出つつあり、見通しが良くなっている。途中入社ではあるが若い人の入社が数名あり、創業43年の濠の部分が払拭(一般土木建築工事業)、「畳のお部屋は夏涼しく冬暖かいと喜んでくださるお客様も多いので豊業に精進する(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「日本の製造業は景気が良いと言われているが、我々小企業にはまったく当てはまらない(印刷業)、「サーボモータ、LMガイドに続いてボールねじも入手困難(その他の機械・同部品製造業)、「店舗販売からネット販売と消費者の意識に激変があり、商業・工業の業態への影響は大きい(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「十二月の季節指数アップは無くなくなり、平月と全く同じ(婦人・子供服小売業)、「柏さごう閉店1年が過ぎ人の流れが益々悪化。さごう跡地利用が進めば商機有り(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「前年並みに推移したが平年より気温が低下した影響もあり、売れ筋の変化が見られた。防寒衣料を

必要とした商品が好調に推移し、特にブーツ・帽子・マフラー・肌着等が前年を大幅にクリア。年末年始商品のクリスマスケーキやおせち等は年々下降となり、今年度も前年割れの状況。お歳暮は前年並みに推移もビールよりお菓子・ハムなどの需要が高まった(その他の各種商品小売業)、「クリスマス予約はマル得チケットの影響もあり昨年より多かつたが、当日売りが曜日の関係で少なかつた(菓子・パン小売業)、「さごう閉店、丸井リニューアルに伴い客層が変わり、日祭日の人出は郊外のショッピングモールに移動し、物販店はかなり苦戦。東口の活性化対策が課題(花・植木小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「大手企業の高収益に対し、ネットを多当化した小売業の利益成長とますます利益企業は変化に富んだ経営を強いられる。十二月売上増、利益幅の少ない企業多し(投資顧問)、「運賃・人手不足・原材料等を反映して全体的に値上りが目立つ。定番商品でもメーカーが見込み生産から受注生産方式に移行。このため販売計画と仕入れ発注が難しい。大型店の影響や日没が早いこともあるが客足の途絶えるのが早い(その他の飲食料点小売業)などのコメントが寄せられた。

### 十二月の景気キーワード

①人手不足  
各業種より、「長雨の影響で工期がずれ人手不足が続く、職人の取り合いが凄まじいが、施工単価が安い状態で余裕ある人手の手配も難しく四苦八苦した(その他の職別工事業)、「例年新卒を4~5名採用していたが来年度の新卒は無しの事態で人員不足に(機械器具小売業)、「来年は2名ほど採用したい。優秀な若者なら外国人でもよい(その他の職別工事業)、「受注が下期集中型なので第4四半期に向けて人手不足が見えてき

ている(その他の機械・同部品製造業)、「受注量が増えても消化できる人員が不足(一般産業用機械・装置製造業)、「相変わらず人手不足は深刻。募集広告を出しても応募がない(その他の飲食料点小売業)、「トラック運転手(社員)不足(一般貨物自動車運送業)との声も寄せられた。

### 売上・受注減少

各業種より、「忙しかった割に売上減少となった。材料は上げ止まりだが、施工単価が下がっている。そこそこ物件は有るが、どこかのゼネコンも施工単価がかなり落ちてきている(その他の職別工事業)、「十二月は受注件数減少。お正月は新しい豊でと考える方が減っている(内装工事業)、「路面店は顧客の高齢化により来客数が徐々に減っている(婦人子供服小売業)との声も寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較  
全産業合計では、「柏の景気」が▲18.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.3で柏の方がマイナス幅が5.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・サービス業・卸小売業であり、建設業・卸小売業では10ポイント以上悪い。